

③ PET-CT検査の説明

福岡徳洲会病院 核医学・PETセンター

「ブドウ糖」が病変部でたくさん消費される事を利用した検査です。CTやMRI等では分からない、患者さまの治療方針に有用な情報を得ることが出来ます。
体内にブドウ糖が無い状態にするために絶食していただきます。

放射性医薬品 2mL を静脈注射します
ブドウ糖の一部を放射性同位元素「F-18」に置き換えて製造された医薬品「フルデオキシグルコース(18F)」を使用します。

この薬を静脈注射し、しばらく安静にすると病変部位に多く集まります。病変からの放射線を「PET-CT装置」で受け取り、検査画像を得ることが出来ます。

検査による被ばく線量はとても少ないです
検査の際の被ばく線量は1回あたり約 3.5mSv です。
これは1年間に自然界から受ける自然放射線量 約 2.1mSv の約1.5倍です。この値に、線量をととても抑えた PET-CT用の CT撮影による線量がかかります。
体に影響が出ることはありませんのでご安心ください。

注射後約6時間ほど経過すると、体内の放射線量は約10分の1になります。「F-18」は放射線量が半分になる時間「半減期」がおよそ110分ととても短いため、この検査に利用されています。
尿と一緒にどんどん排泄されるため、薬の放射線は急速に無くなっていきます。

小さなお子様などへの配慮
放射線を用いた検査ですので、妊娠中やその可能性がある方は基本的に検査出来ません。
また、安心のために子供さんとの来院はお控えください。
抱っこなどの密な接触は12時間ほど控えてあげると良いと思います。
授乳中の方は、授乳を24時間お控えください。
(検査前の搾乳をご検討ください)